

## 第6回川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会 会議録

日時 令和元年5月15日(水) 10時00分～11時30分

場所 川口市役所 本庁舎 第3会議室

出席者 (委員) 利根会長 増田副会長 岩崎委員 後藤委員  
鈴木委員 寺久保委員 原田委員 布施委員  
丸山委員 森委員 吉岡委員  
岡村アドバイザー

(事務局) 間中生涯学習部長 江原文化推進室長 立花室長補佐  
菅井主査 尾崎主任 秋田主任

### 議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

議題(1) 川口市美術館建設基本構想(案)について

#### 【事務局より資料に基づき説明】

#### 【質疑応答】

(委員) 3月の段階から比べると、非常に良い形でまとめていただいた。川口市のような大きな自治体に美術館がなかったことが逆に不思議である。当初、事務局からの提案は、伝統的な従来型の美術館であった。しかしながら、このタイミングで建設するのであれば、全国的に例のないようなユニークなものを建設してもよいのではないかと思ひ発言させていただいた。また、委員の皆様からも様々なご意見があった。結果的には、全国的にも珍しい存在感のある新しい美術館、アートを切り開く美術館を目指していこうということで、非常によくまとめて頂いたと高く評価をさせていただきたい。

(委員) 以前と比べとてもよくまとまり、色々な情報がわかりやすくなったが、一点だけお願いしたい部分がある。11ページ(2)の機能強化というところに「限りある財源で最大限の効果を生み出す」という言葉があるが、「限りある財源」では、寂しい感じがするため「限りある資源」とするのはどうか。また、「最大限の効果」というと上限が決まってしまう。効率を上げるような話になるので、

アートの世界とは違う理念、言葉遣いになるため、「最大限の効果」という言葉より「可能性を広げる」というような言葉とすると、理念をあらわす資料としてはよくなるのではないかと思う。

(委員) 前回の会議のときに出た様々な意見も取り込まれて魅力的な構想になった。一点、広報に関しての言及がこの資料の中にはないように思われる。実際にその美術館が動き出したときに広報活動というのは、とても大事である。

一般的に公立美術館の構想の中には、広報について取り上げられていないことが多い。実情の活動組織としても広報の専門家や部署が無いことが一般的であるため、学芸員が片手間に広報活動をしなければならない。このような状況があるため、構想の段階で広報の位置付けを議論することは大事であると思う。資料15ページの図式から見ると、経営企画部門で行う事柄は展覧会の広報とはまた少し違うように感じる。構想の中に、広報の専門家を入れることはできないか。

(事務局) 学芸部門における広報担当として、15ページの学芸部門に広報担当者を追加するというところでいかがか。

(一同) 異議なし。

(委員) 美術館の運営の中で大事な、作品の貸し借りや交渉等には人脈が必要である。そういう意味では他館とのコミュニケーションがものすごく大事で、それが運営の鍵を握る可能性がある。この資料には、市内文化施設との関わり、市民との関わりについて非常に強く書かれているが、他館との関係について一言あるとよいのではないか。それとも今後、議論すべきなのか。

(事務局) 現段階では基本構想ということで、運営の細部まで検討はしていない。運営主体も含めて検討していきたい。

(アドバイザー) 他館との連携や借用等の発言について、アトリアは、全国美術館会議に最近加入したが、新しい施設も同じように入ることによって、他の美術館との連携も出来、借用等も可能となると思われる。今までアトリアは、施設的な不備により他館からの借用が出来なかったが、新しい施設は、他館からの借用に必要な設備についても、検討する必要がある。

(委員) 美術館の運営についても、様々な意見を取り入れたことにより、多彩な運営方法が必要となった。また、それによりハード、ソフトの両面でコスト増が発生する心配が出てきている。どこかに、全体のハード、ソフト両面からコスト面も考えながら運営していくという文言を入れた方がいいのではないか。

(事務局) 運営コスト、建設費の削減などについては、基本計画の中で検討していきたい。

(委員) 今回、コンセプトの中に「市民が集い」ということが位置づけられたことはよかった。元々、美術は日本人の暮らしの中にあっただが、今は美術館のような特殊なところでないと見ることができない。美術が、人々の暮らしの中に戻っていくということはよいこと。自治体をあげて、元々あった伝統や美を総合させて、将来の美しい暮らしを提案出来たら素晴らしい。知恵を結集し、独創性を持った取り組みを形にしていけたらよいと思う。

(委員) 市民の立場で参加してきたが、「美術館はいらない」という意見を持たれる方々に対しても、十分に説明できる資料になったと思う。前回までの「川口の美」は、落ち着かない言葉であったが、それが「川口の文化、歴史、産業」という言葉に置き換わり、わかりやすくなった。しかし、新しく、8ページに「川口愛」という言葉が出てきており、これも落ち着かないと感じた。他にもっと相応しい言葉はないか。

(事務局) ご指摘の部分については、誤記である。資料の不備をお詫びするとともに、「川口愛」を「川口への愛着」に修正したい。

(委員) 「文化」としていたところに、歴史と産業を加えたことにより、博物館的な要素や、産業との連携による稼ぐアートという広がりが出てきたと思う。

選ばれるまちになるためには、文化、歴史、産業に親しむ機会を提供することにより、文化都市川口市民であることの「誇り」と「川口に対する愛着」の二つが必要なのではないか。川口に住んでいるというプライドは、こういう文化のある都市に住んでいるということを認識することで成り立ち、それが愛情や愛着に繋がると考える。

(事務局) ご意見を踏まえ、「川口愛」を「川口への誇りと愛着」に記載を変更させていただく。

(委員) 私も、友人や知人、いろいろな方から、美術館についての意見や質問を受けているが、みんなが楽しく、ワクワクするようなものができるかと胸を張って言えるものになったと思う。

(会長) 基本構想案については、今回の意見を踏まえて一部修正を加え、審議会として教育長に答申をするということよいか。

(一同) 異議なし。

## 議題（２）その他（基本計画検討のスケジュールについて）

### 【事務局より資料に基づき説明】

### 【質疑応答】

(委員) 第８回で建物の仕様等を審議した上で第９回に候補地を検討するのは逆ではないか。このような候補地があって、その場所にどのような建物を建てるかということであれば検討可能だが、建物を検討した後、土地が狭く建設できないという結果になりはしないのか。

(委員) 延べ床面積はどの程度を想定しているのか。

(事務局) 事務局では、資料作成等のため、仮に、８００坪程度を想定しているが、必要な諸室の大きさなどは、基本計画の中でご議論いただきたいと思う。また、ご議論いただいた内容を踏まえ、今後、設置可能な候補地をご提示させていただきたいと考えている。

(会長) 候補地は絶対要件ではなく、あくまでも構想に基づき、必要な建物やスペース等を検討していく。当然、コスト面での問題等もあるので、結果として駄目という判断もあり得るし、いくらお金をかけてもよいということではない。そういう前提でのスケジュール案ということよいか。

(委員) 第８回と第９回は、予定としては別の議題であるが、密接な関係があるため、全てを含んでの審議という形で考えてみればよいのではないか。

(会長) 面積については大体イメージが出来ているということなので、この案でよいか。

(一同) 異議なし。

(事務局) 今回の修正を踏まえて資料を作成し、今月中には教育長、教育委員会に答申をお願いしたい。同時に市長にも報告をお願いする。

#### 4 閉会